

# 平成24年第一回仙台市環境審議会 議事録

平成24年6月4日(月)

10:30~12:00

仙台市議会第一委員会室

## I 次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 議事等
  - (1) 会長、副会長の選出について
  - (2) 避難所等への防災対応型太陽光発電システム整備事業について(報告)
  - (3) その他
    - ・環境影響評価制度見直しの進捗状況等について
    - ・夏の省エネ・節電対策について
    - ・震災廃棄物等処理の進捗状況等について
5. 閉会

## II 出席委員数

出席 22名

欠席 3名(金久保佐知子委員、間庭洋委員、吉岡敏明委員)

## III 議事等

司会(企画調整係長)	議事等に入る。はじめに当審議会の会長・副会長を選出していただきたい。 会長・副会長については「仙台市環境審議会の組織及び運営に関する規則」第2条第1項の規定により、委員の互選により決定することとなっている。自薦・他薦を含め、ご提案はないか。
工藤委員	会長を西村先生にお願いしたい。西村先生は前回の起草委員会の際に委員長としてリーダーシップを発揮され、すばらしい審議会の運営をしていただいた。 副会長は鈴木陽一先生に。先生は前回地球温暖化部会の部会長を務められ、専門的な立場から取りまとめていただいた。 もう一人は花輪先生に。杜の都環境プラン起草委員の一人で、客観的な立場からいろいろなご意見を整理しまとめていただいた。 以上のとおり推薦する。
司会(企画調整係長)	ただいま、工藤委員より会長は西村修委員に、また副会長は鈴木陽一委員と花輪公雄委員に、というご提案をいただいたが、皆様いかがか。

委員	「異議なし」
司会(企画調整係長)	では、西村委員いかがか。
西村委員	皆様からのご推薦なのでお引き受けしたいと思う。
司会(企画調整係長)	それでは、西村修委員にお願いしたい。どうぞよろしくをお願いしたい。 では、鈴木陽一委員、花輪委員はいかがか。
鈴木陽一委員	お引き受けしたいと思う。
花輪委員	お引き受けしたいと思う。
司会(企画調整係長)	では、西村委員は会長席に、鈴木陽一委員、花輪委員は副会長席にお移り願いたい。西村会長よりご挨拶いただきたい。
西村会長	一言ご挨拶させていただく。身に余る大役だが、全力で事に当たりたいと思う。委員の皆様の協力をお願いしたい。 杜の都環境プランの案を策定させていただいたが、このプランは東日本大震災後の混乱の中、平成 23 年 3 月 15 日に市議会で議決された。震災の影響を考慮し、環境先進都市・仙台をより強力に推進していく必要があると思う。震災から 1 年 3 カ月経過しているが、この間の復旧・復興にあたり災害に強いまちづくりを進める上で、杜の都環境プランの考え方が活かされたという話も聞いている。自然は非常に恐ろしい一方で、その恵みにより私たちの生活が成り立っていることも、強く意識して過ごしていかなければならない。さらに持続可能な社会を作っていかなければいけないと思う。 杜の都環境プランのスローガンは「杜と生き、人が活きる都・仙台」であり、私たちは自然の脅威とうまくつきあいながら、その恩恵を次世代に引き渡していく役割を担っていると思う。杜の都環境プランは 2011 年から 2020 年の 10 年間のプランである。2050 年の温室効果ガスの削減目標としては、地球全体で 50%、先進国で 70%~80%の削減が求められている中で、非常に重要な時期と考えているので、委員の皆様の活発なご審議と皆様の協力をいただきながら、環境先進都市・仙台を推進していきたいと思う。どうぞよろしくをお願いしたい。
司会(企画調整係長)	ありがとうございます。鈴木副会長、花輪副会長におかれてもよろしくご協力の程、お願いしたい。 これからの議事進行に際しては、規則第 5 条第 1 項に基づき、西村会長にお願いしたい。

議長（西村会長）	<p>それでは引き続き、議事等を進めていく。委員皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。進行に際して事務局より確認しておかなければならないことはないか。</p>
事務局(環境企画課長)	<p>本審議会の運営に関して、皆様に確認していただきたい事項が2点ある。</p> <p>まず、1点目は会議の公開に関してである。会議は情報公開条例の非開示事項に該当するときに除いて、原則「公開」とすることでよろしいか確認願ひたい。</p> <p>2点目は会議の議事録についてである。これまでの環境審議会の議事録については、事務局が案を作成した後、まず発言者に内容の確認を行うこととした上で、会長と出席者お一人の確認署名をいただき、正式な議事録としていたところである。今回もその方式でよいか確認をお願ひしたい。</p> <p>なお、議事録も原則公開となる。</p>
議長（西村会長）	<p>それでは、ただいま事務局から話のあった一点目「会議は情報公開条例の非開示事項に該当するときに除いて、原則公開とする」ことについて、この通りでよろしいか。</p>
委員	<p>「異議なし」</p>
議長（西村会長）	<p>それでは、2点目の議事録の調製についても、これまでどおり「会長と出席委員1名の署名をもって、正式な議事録とする」としてよろしいか。</p>
委員	<p>「異議なし」</p>
議長（西村会長）	<p>それでは早速、本日の議事録についてご署名いただく委員だが、出席委員の五十音順で順番にお願ひしたい。</p>
委員	<p>「異議なし」</p>
議長（西村会長）	<p>では、今回は伊藤絹子委員にお願ひしたいがよろしいか。</p>
伊藤委員	<p>「了解」</p>
議長（西村会長）	<p>それでは議事に入りたい。本日の議題等だが、議事等の（2）「避難所等への防災対応型太陽光発電システム整備事業について」事務局から説明していただきたい。</p>
事務局(環境企画課長)	<p>(資料1に基づき、説明)</p>

<p>武田委員</p>	<p>防災対応型太陽光発電システムの導入は、小中学校全校と記載されている。</p> <p>1年前の地震で陣頭指揮をとったが、被害の少ない私の地区でさえ小中学校に収容できないほど多くの人が集まった。急遽入りきれない人たちを各町内会の集会所に収容し、そこを避難所にするについて交渉したが、集会所は指定避難所ではないので難しいという回答だった。太陽光発電の導入はいいと思うが、実際の範囲の施設までやるのか。この前の震災時には、市民センターは避難所として使用できなかった。町内会では、避難所の見直しについて集会所まで含めて避難所にしてほしいと市に提言している。地域の集会所まで太陽光発電を導入したときに、補助を考えているのか聞かせてほしい。</p> <p>また、こういう制度をつくり避難所の整備を進めるのはいいが、縦割り行政をやめてほしいと話している。私たちと相談・協議をするときは、司令塔を一つにし、仙台市の判断・方針決定は、一つの機関でやってほしいと申し入れているが、なかなか実行されていない。どのように考えているのかお答え願いたい。</p>
<p>事務局(環境企画課長)</p>	<p>1点目の質問だが、現在地域防災計画の見直しの作業に入っており、消防局が所管し全庁的に行っている。最終決定ではないが、指定避難所をこれまでの小中学校から拡大し、市民センター等も入れていく方向で検討している。確定的な話は申し上げられないが、議論の中で避難所の機能等について検討が進んでいくものと思う。本事業は国の基金を使っており、学校等200カ所余りに導入すると、予算を消化してしまうことになる。仮に全ての市民センター等にも同じ設備を入れるとすると、財源確保などの課題もあり、全市的な防災計画の中で議論されることとなるので、現時点では申し上げられない。</p> <p>地域集会所等への補助の話については、集会所を防災拠点としてどう見るか、そのためにどういう形で電源等の対策をするかという議論の中で、検討されるべきと考えている。まだそこまで議論が進んでいないと聞いているので、今お答えできるのは以上である。</p> <p>2点目についてだが、非常時においては、危機管理上司令塔1本という体制が大事である。仙台市でもそれを目指し今回震災対応をしてきたつもりだが、様々な意見等がある。今後とも、見直しも含め、迅速に対応できるよう全庁的に努力していきたいと思う。</p>
<p>工藤委員</p>	<p>本件を今回の災害をきっかけとした最初の審議事項として取り上げたことは、すばらしいことだと思う。震災では電気と石油がなくなると、文明の利器が役に立たないことを実感した。津波で命が助かった人たちが集まっている避難所は悲惨な状態で、情報の途絶によりせっかく助かった命が失われていく状況もあった。そういうことが一つのきっかけになり、このシステムを仙台モデルとして積極的に展開していくべきだと思う。</p> <p>災害のために備えたものは、その瞬間においてほとんど役に立たなかった。発電機も災害に備えて用意しておいたが、動かそうとしたときに動かない。常時使用し</p>

	<p>ながら、災害時には電気がこなくても、10分の1、20分の1の電気が使用できるということが、本事業の重要な意義である。</p> <p>東北大学では、電力会社の交流の電力がなくても直流だけで蓄えて、自然エネルギーを電気に変換する時代がくるということを議論して、蓄電池と交流、直流の二系統を施設の中で行うエコハウスを作っている。東北学院大学の先生もモデルプラントを作っている。こういったものを参考にしていきたい。</p> <p>最後に、この事業は、最初に公共施設に導入し、これを機会に事業所、集会所、集合住宅等の個人の家庭にまで普及していくきっかけづくりとしては、大変すばらしい提案だと思う。被害を受けて再起しようという企業にとって、大きな仕事づくりの種となる。是非経済局と連携して地元の企業の仕事づくりという視点からも、リーダーシップをとっていただきたい。仙台モデルとして東日本、日本の将来に向けて見本になるような知恵を集めてやっていただければと思う。</p>
事務局(環境企画課長)	<p>仙台モデルの趣旨は、拡張性が高く新しい機能を盛り込んだ仙台のスタイルをしっかり固めるということである。そしてそれを共通仕様化して、地元の業者がその仕様をみれば事業展開できる、設計・施工できるレベルに繋げていくことだ。大手に一括発注という方法もありうるが、そうではなく共通仕様のものを用意し、それをベースに地元企業を含め幅広く発注できる体制を整えることで、復興にも資する形でやっていきたいと考えている。</p>
工藤委員	<p>ソーラーパネル、バッテリー、ほかの発電機、風力発電あるいは水力発電等その地域で得られるエネルギーも、商品開発の一つのテーマになると思う。人、もの、金、エネルギーも地産地消ということを提示し、リーダーシップをとってほしい。</p>
佐藤由紀子委員	<p>避難所が仙台モデルとしてよくなるということだが、問題はバリアフリー化されていないということだ。この間の震災でも障害のある方が辛酸をなめた。想定する避難所のバリアフリー化がされていないと、整備された避難所である程度の生活が保障される障害のない方と、避難所にたどりつけない障害のある方との落差が非常に大きくなる。話の出発点において、避難所のバリアフリー化を一緒にやっていただきたい。何かあったときに障害のある方もそこにいられるような避難所にしてほしい。ここでいうべきことではないかもしれないが、是非ご検討いただきたい。</p>
事務局(環境企画課長)	<p>今後の地域防災計画で避難所機能をどのように高めていくかという大事な話なので、健康福祉局や消防局など関係局に的確に伝えたい。</p>
杉山委員	<p>蓄電や太陽光発電をつける工事をするとき、より効率良く使用するための設計変更が少し入るのではないかと期待している。ほんの少しの設計変更で、電気を使用していたところも電気を使わずにすむ、自然採光をすること等も含めて、もっと</p>

<p>渡辺委員</p>	<p>生活環境が良くなると思う。バリアフリー化も含めて期待している。</p> <p>今の指摘は学校施設の仕様をあげることが必要になってくると思うので、今後検討していただきたい。</p> <p>5ページのシステムのイメージや8ページのその他の検討のところ、熱利用について触れられており、非常に重要なことであり評価している。住宅においては、照明コンセントのエネルギーとともに特に給湯等の熱利用も、非常に大きな割合を占めている。この基金は防災対応がメインかもしれないが、これを通じて平常時、非常時双方に活用するものを同時に普及させるという観点から、熱利用というものは欠かせないと思われ、ここに言及しているところは評価したい。</p> <p>わからないことは、この基金の適用範囲が発電と蓄電に限定されているような気がするが、熱利用については将来的にはそういうところも含みうるように準備や検討を進めていきたいということなのか、例えば、すぐスマートハウス補助金に組み込んでいくことを考えているのか、熱利用の位置付けについてももう少し教えていただきたい。</p>
<p>事務局(環境企画課長)</p>	<p>国の基金においては、熱利用に関しても活用可能な部分がある。小中学校については、基本的に熱需要があまりないので難しいが、先程説明したとおり福祉避難所等への導入を検討する際には、是非基金を活用して熱利用も展開していきたいと考えている。</p>
<p>議長(西村会長)</p>	<p>残りの報告事項に入る。(3)のその他、「環境影響評価制度見直しの進捗状況等について」「夏の省エネ・節電対策について」「震災廃棄物等処理の進捗状況等について」の3項目について続けて報告をお願いする。</p>
<p>事務局(環境都市推進課長)</p>	<p>環境影響評価制度見直しの進捗状況等及び資料2に基づき夏の省エネ・節電対策について説明</p>
<p>事務局(震災廃棄物対策室参事)</p>	<p>資料3に基づき、震災廃棄物等の進捗状況等について説明</p>
<p>鳥居委員</p>	<p>震災廃棄物処理等の進捗状況等について、災害廃棄物の処理を所掌する立場から、石巻地区の10万トンを引き受けていただくことに感謝し、敬意を表したい。市内の廃棄物処理が最優先課題だと思うが、宮城県そして東北の復興のために、10万トンの処理について尽力いただくよう改めてお願いする。</p>
<p>工藤委員</p>	<p>がれきの受入れで、全国的にいろいろな意見や動きもあるなか、仙台市でこれだけ受け入れる。</p> <p>木質がれきは、燃料化してエネルギーを回収するというのでいいのか。焼却処</p>


事務局(震災廃棄物対策室参事)	理やバイオマスによる発酵でガス化することについて、どのように考えているのか。
工藤委員	<p>家屋の解体等によって生じる木くずは燃料化できるということで、仙台市も石巻市もその方向で進めている。</p> <p>一方で津波によりもみくちゃにされた混合廃棄物がある。こちらには可燃分・不燃分・土砂が一緒になっているため、選別破碎し可燃物は焼却している。このような混合廃棄物の木くず等燃料化できない、リサイクルできない木くずを、仙台市が受け入れ焼却するものである。</p>
事務局(震災廃棄物対策室参事)	<p>それはどこで燃やすのか。</p> <p>石巻からの木くず等は、仙台市沿岸部にある3ヵ所の搬入場、合計で480トンの仮説焼却炉と既存の3つの清掃工場で焼却することで対応を考えている。</p>
工藤委員	そこからエネルギーを取り出せる方法は考えていないのか。
事務局(震災廃棄物対策室参事)	既存工場は発電装置やボイラーがあるので対応可能だが、仮説焼却炉は速やかな処理を目指していたため、余熱利用等の施設は設置しておらず、エネルギー回収はできない。
議長(西村会長)	<p>ほかに質問等ないか。</p> <p>環境影響評価制度見直しについては、次回以降に審議させていただくということでもよろしく願います。ほかに何か委員の方からご意見、ご質問等あれば伺う。</p>
工藤委員	<p>今回のテーマは、新たに国の基金を活用した事業の件であるが、もともとは以前から本審議会や市が志向していた再生可能エネルギーあるいは地球温暖化、低炭素社会の実現が基本である。今回仙台市が災害を受けたことから、この基金を活用するということだが、本来のエネルギーを保存して非常時に活用し、さらにそれが進めばエネルギーの地産地消の方向に進んでいく。また今使用している電力等を5分の1、10分の1で済む技術開発についても仙台市から情報を発信しながら、エネルギー削減の技術開発をし、それを製品として生産していくと、新しいビジネスとして発展していく。</p> <p>その辺を踏まえて、一つの仙台モデルとして、環境という切り口だけでなく産業として、その地域で人、もの、金、エネルギーが循環することが原点だと私は思う。</p> <p>以上のことから国の基金は先導として使えるのではないか。この基金の10倍、20倍、50倍のものが仙台市の産業、仕事づくりとして繋がっていくと思うので、経済局や県も巻き込んでやっていくぐらいの情熱を持ってお願いしたい。</p>

議長（西村会長）	そのほか、事務局から連絡事項等あるか。
事務局（環境企画課長）	今後の審議会の日程についてだが、次回の環境審議会は、年度の後半を予定している。日程については、詳細が決定したら改めて連絡するので、よろしくお願いしたい。
議長（西村会長）	他にないか。なければ、本日の環境審議会の議事を終了する。審議会の円滑な運営のご協力いただき感謝する。
司会（企画調整係長）	ありがとうございました。 以上をもって「平成 24 年度第 1 回仙台市環境審議会」を終了する。

この議事録について、会議の内容と相違がないことを認める。

平成 24 年 8 月 10 日

仙台市環境審議会署名委員

会長 西村 修   
委員 伊藤 絹子 